

第一回 丹波市

# 田舎力大賞

丹波を愛し

丹波を広め

人と繋がりをもつ

力強い活動

とき 2012年8月4日(土)  
時間 17時~20時

次第

- 一 開会
- 二 国家斉唱
- 三 理事長挨拶
- 四 来賓紹介
- 五 主旨説明
- 六 田舎力大賞 発表
- 七 歓談
- 八 (社) 丹波青年会議所 P R
- 九 田舎力大賞 表彰式
- 十 総評
- 十一 謝辞
- 十二 閉会



## ごあいさつ

平素は社団法人丹波青年会議所に対しまして格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本日開催させて頂きます(社)丹波青年会議所第1回田舎力(りき)大賞を企画させて頂いたところ多くの方々のご協力により開催させて頂くことが出来ました。そしてなによりもこの大賞の趣旨にふさわしい方々のエントリーがありましたこと心より御礼申し上げます。

この田舎力大賞は、「故郷を愛する想い」や「夢をかなえる想い」など各分野で活躍されている人に注目し、その功績や活動に人々が共感し応援する機運を広め、志を同じくする人の輪が広がり、活力ある丹波へと繋がる大賞になることを願っております。

最後になりますが、私たちは明るい豊かなまちづくりを目指しJC運動を展開させて頂いております。皆様には、これまでも変わらぬ青年会議所活動に対するご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

社団法人 丹波青年会議所  
第41代理事長 藤田瑞夫

最後に・・・

本日は、第1回丹波市 田舎力大賞に御参加頂きまして誠にありがとうございます。これからもまちづくりを通して人とのつながりを大事にしていき、さらに丹波が活性化するように願います。

社団法人丹波青年会議所 丹波活性化委員会

担当副理事長 鈴木英雄 担当委員長 村上真也

担当委員会 垣内竜馬 岩井弘幸 堅田大輔 藪内智典

主催 社団法人 丹波青年会議所 後援

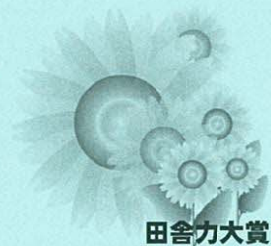
丹波市 兵庫県丹波県民局 丹波市教育委員会  
(株)神戸新聞社 (株)丹波新聞社



# なかがわ ひろか

(不登校コンサルタント)

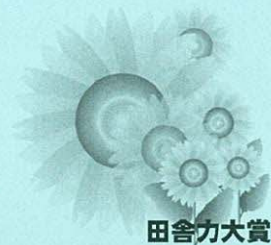
2011年2月より不登校・引きこもりコンサルタントとして正式に事業登録し、独立する。不登校や引きこもり専任の家庭教師事業、カウンセリング事業、また働く人の心のメンタルヘルスケア事業を行う。また、2010年よりアコースティックライブの音楽活動を行いこれまでに2000人以上の前で演奏し、地元丹波市成人式テーマソングを作詞作曲する。また本を通しての人と人とのつながりの場を作るため、「朝読書会 inT AMBA」を主催し、活動の場を広げている。



# 十倉 孝實

(丹波の武田信玄)

地域の活性化をめざして、有志で「元気村かどの」設立「たまごかけごはん」の発起人でもある。農産物の販路拡大に積極的に取り組み、都市部との交流も生まれた。現在も八尾市（大阪府）との交流は続いている。杵つき餅が好評の味工房「葛野村」の設立にもかかわった。



# 氷上西ミニ バスケットボール教室

(バスケットを通じた人間の育成  
～点数で勝つことより、人間が負けない心づくりをする～)

昭和61年4月、西小学校を母体としてチーム発足以来継続して27年目となる。現在では西小学校以外からもバスケットボール好きが集まり、火曜日・金曜日・土曜日の週3回の活動を行っている。主な成績は全国大会3回出場、近畿大会1回出場（準優勝）兵庫県大会優勝8回、準優勝1回、3位1回



# 下町沖田区 花の会

(花のもつ力を借りて、人と人、  
人と地域の輪をつなぐ)

1996年頃「おんどりフラワーロード」と名前を決め、活動開始。その後、いろんな組で美化や防犯・見守りを目的に活動場所が広がる。2011年田丸和美先生の指導により区内で花づくりグループを発足。名前を「下町沖田区花の会」とした。おさんの森、里山活動・自然保護を目指しています。



# 畑田 繭・萌香・森夢

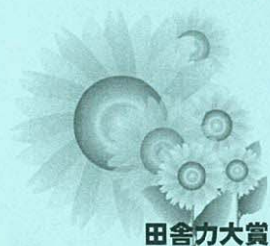
(2年後のソチ冬季五輪出場目標！)

平成18年5月から活動を始め、チームサンガリアに所属。第2の上村愛子。今後の活躍により丹波市のアピールに。2年後のソチ冬季五輪へ出場、さらには金メダルを目指し、今後に期待がかかっている。

◇畑田 繭 西日本スキー選手権 女子の部 第3位 (H24年3月3日)

◇畑田森夢 ハート モーグルカップ 小学生女子の部 第6位

◇畑田萌香 JOCジュニアオリンピックカップ 中学生総合女子第1位  
(H24年3月20日)



# のんびり楽農クラブ

(農村と都市の農業体験交流)

平成20年、ふるさとひょうご創生塾の実践活動として「のんびりクラブ」を立ち上げ、年間3回の農業体験交流を実施。

平成23年度に、地元農業の振興と休耕田対策に取り組む。有志グループ「楽農クラブ」と合体し「のんびり楽農クラブ」を設立し、年間5回の農業体験交流を実施している。



# 鴻谷 佳彦

(地産地消の仕事人)

丹波市において鹿肉の特産品化が急務な現状を踏まえ、鹿肉を普及させるために6年前より鹿肉の調理方法や普及方法を進めてきた。鹿肉の普及に当たっては、丹波地区学校給食共同調理場研究協議会に調理指導を行い、学校給食への鹿肉を使用したメニューを提案し、子供たちへの鹿への関心を高めるための活動を行っている。

そういった活動が認められ、平成23年農林水産省より6次産業化を進める「地産地消の仕事人」の任命を受け、活動範囲を全国に広めている。